

★輝いてます

いしづか よしのぶ
● 石塚 義信さん (末広町)



会長を務める小堤公園愛護会が、みどりの愛護活動で国土交通大臣表彰受賞

4月27日に新潟県長岡市で開かれた、第13回全国「みどりの愛護」のつどいで、小堤公園愛護会が国土交通大臣表彰を受けました。「大変地味な活動にもかかわらず、先輩を含めた会員の地道な努力があったからこそ表彰していただけたのだと思います」と語るのは会長の石塚義信さん。昭和55年に老人クラブ「末広町喜和会」のメンバーで組織され、現在会員は137人。小堤公園、安城公園などのごみ集めや除草を月2回定期的に行っています。「普段ゲートボールやグラウンドゴルフで使わせていただいている公園だからと、誰に強制されるでもなく皆自然な気持ちでやっているところがいい。またコミュニケーションの場としても大いに役立っているんですよ」とも。

石塚さんは、4月から市老人クラブ連合会の会長にも就任され、多忙な日々を送っています。「老人パワーを発揮して、皆でスポーツや健康の推進に努めたい。明るい人・明るい街づくりについて若い世代の人たちと一緒に考える場を作っていきたいです」と抱負を語っていました。



野草歳時記

135



キツネアザミ でいこさい 〔泥湖菜 キク科〕



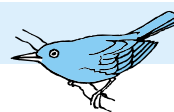
水田や耕地の周辺だけにしかなく、あまり山間部には生えていません。この種類は2年草で、発芽した年は根生葉のままで冬を越し、2年目の春に開花して実をつけるとやがて枯れます。知らぬ間に突然明るい花を咲かせ、やがていつの間にか消えて

いくところは、いかにもキツネの名にふさわしい気がします。アザミ類のような濃い花色ではなく、淡紅色のはかない花の色も、やはり化けるキツネに通じるように思います。

写真・文／三井亨氏＜城ヶ入町・安城市文化財保護委員＞

安城の野鳥

158



くちばしが長く、飛ぶと翼に白い線があり、尾の先が黒いことからこの名前が付いています。どちらかと言うと海水より淡水を好み、海岸部に近い水田で、長いくちばしを使って器用にミミズや昆虫などを食べています。市内では数回観察されていますが、数は多く

ありません。

写真・文／杉山時雄氏＜桜井町・西三河野鳥の会会員＞



オグロシギ — シギ科 —